

(社)全国高等学校PTA連合会と小誌編集部による調査結果検討会より

調査結果を保護者はこう見た

第5回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」を合同で行った(社)全国高等学校PTA連合会と(株)リクルートは、データ集計を終えた2011年12月に調査結果検討会を開き、今回の調査を振り返りました。保護者の立場からはこのデータがどう見えたか。家庭で、また高校で、今後どのような対応をしていくべきか。忌憚のないさまざまな意見が出ました。各高校において、この調査結果を保護者と共有する際の参考になればと思います。

まとめ／荒尾貴正(本誌編集デスク)

●会議出席者

■(社)全国高等学校PTA連合会 相川順子(会長) 北沢好一(理事・事務局長) 工藤重信(担当役員・副会長)
【進路対策委員会】正木毅(委員長) 池内勝彦(副委員長) 山本富造(北海道) 住吉治彦(青森) 田口裕之(茨城)
岩淵賢次(東京) 齋藤隆(新潟) 榎本実(愛知) 藤田城光(大阪) 小出邦彦(佐賀) ■小誌編集部

子どもが夢破れても

頑張れるアドバイス

●進路についての会話のなかで、**保護者がよく使う言葉のナンバーワンは「自分の好きなことをしなさい」**なのです(12p図4)。昔は「この店を継げ」とか、「お父さんのような職業を目指せ」といったアドバイスが多かったように思いますが、もうそういう時代ではないのでしょうか。ただ、「見優しい言葉に聞こえますが、突き放されたと感じる高校生もいると思います。だから私は**「あなたには○○の道も良いと思うよ」と**

いったアドバイスも意味があると思っ

ています。そう言われたことをきっかけにして自分の適性を考え始めたり、反発して別の道を考え出したりするから好都合ですね。

●私も「あなたの好きなようにすればいいよ」としか言わないような親は問題だと思っています。「夢を目指したい」と言った子どもに対して、夢の実現を応援することは大いにやるべきですが、夢破れた時、たとえ第2志望、第3志望であっても、今度はそこで一所懸命に頑張ろうと伝えなければなりません。そういう「ミニミニ」を怠るような親

は、無責任だといわれても仕方ないのではないのでしょうか。

父親はもっと

子どもと話す時間を

●**高校生の相談相手は、毎年母親がトップ**のようです(15p図9)。小さなころから育児やスキップの中心は母親ですから、その関係性からすればこの結果は納得できます。父親は仕事があるために、子どもと会って話す時間帯が限られているというのが実情ではないでしょうか。とはいえ子どもと



理事・事務局長
北沢好一



会長
相川順子

共有できる時間を作ることが父親の務めだと私は考えています。日常の何気ない会話でもいいし、朝のあいさつでもいい。こちらが「おはよう」と言っても返してくれないければ、何度でも言ってみる。そうして「君のことをいつも気にしてるよ」という態度を示すことが父親にも必要でしょう。

●この結果について世の父親たちは、あまり悲観しなくていいと思いますよ。たとえ父子の会話が少なかったとしても、母子の会話が十分なされているならば、あとは父母が考え方を確認し合えばよいのですから、それほど問題はなideしよう。むしろ父親に求められるのは、いつもドーンと構えていて、いざという時に大切な判断をすること。そういう役割を果たせていれば十分だと思いますね。

●ふだん父親や母親と相談できているような子どもはあまり問題がないんじゃないですか？ 私が気になったのは「影響を受けている人」のところで、「影響を与えている人はいない」がきわめて高かったこと(15p図10)。もしかしたら進路を考える時に孤立して、立ち止まってしまっている高校生が多いのではないかとこれを見て心配になりました。

●確かに気になるデータですね。一方で

進路を考える時、「自分の可能性が広がるようで楽しい」という高校生が27%います(21p図21)。どんな高校生がそう考えるのか、彼らの生活環境や本音の部分を知りたくなります。

現代の若者たちは幸福なのか？

●「現代の若者」という観点で言えば、内閣府などいくつかの調査では「幸せ」を感じる若者がこのところ増えている傾向が見られるようです。今回の調査では、「これからの社会は好ましいか」が興味深いですね(23p図25)。「好ましい社会ではない」という意見が約7割を占めるものの、「好ましい社会だ」という意見は、親子とも前回調査から増加しています。日本の若者たちに自然なかたちで幸福感が広がってきたのだとすれば歓迎すべきですが、もしこれが今より良くなることはなさそう。だとしか思えないから現状に満足しているといった心情の現れだとしたら、問題はかなり根深いと思いますね。

●今回の調査には、東日本大震災の影響についての設問もあります。あのようなことでつもなく悲惨な出来事があると、子どもや保護者の将来展望は保守的に傾くのではないかと考えていた

のですが、かならずしもそうではないようです。25p図28にあるように、「震災の前後で進路や将来の考え方にあまり変化がなかったことが私にとっては意外でした。

●私も同感です。「毎日を大切に生きていきたい」や「ボランティア活動などに積極的に参加したい」といった項目は上昇していますが(26p図29)、おっしゃるように図28は親子とも変化が少ない。私も意外に感じましたが、これが現実なのかもしれませんね。

●それにしても被災地にたくさん的高校生が集まってボランティアの作業をしている姿には本当に感銘を受けました。やはり日本人は捨てたもんじゃありませんね。こういうすばらしいところは後世に伝えていかなければなりません。

生徒の20年後を想像したキャリア教育をしてほしい

●最近の高校生は保護者に対して比較的、進路選択のアドバイスを求めているのですね(14p図7)。それに対して難しいと感じている保護者がたくさんいますが(24p図26)、その気持ちはわかるような気がします。保護者のアドバイスが難しい原因のひとつは、情



茨城
田口裕之



青森
住吉治彦



北海道
山本富造



副委員長
池内勝彦



委員長
正木 毅



担当役員・副会長
工藤重信

報源が偏っているからなのかもしれない。というのも27p図31を見ると、私たちの情報源は高校から持ち帰る資料や他の保護者などが多く、意外に身近なものが多い印象です。もしかしたら情報が固定化しているために、的を射たアドバイスができないという保護者もいるのではないのでしょうか。その点では、学校からの情報発信に大いに期待したいところですね。

●高校の進路指導への要望は全般的に高校生よりも保護者のほうが強いようですが(30p図35)、そのなかで私が注目したいのは「職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会をもっと設けてほしい」という項目。調査データを詳しく見ていくと専門学科だけでなく、普通科高校の子どもをもつ保護者もこうした取り組みに期待しているようですが、私もまったく賛同いたしません。高校は学問を教えるだけでなく、生きる力を育ててほしい。その意味で普通科高校においても、もっと熱心にキャリア教育に取り組んでもらいたいですね。

●保護者のキャリア教育の認知度は34%という結果でした(31p図36)。わが県もおそらくそのくらいの水準ではないかと思いますが、県知事の方針と

して今後、県の小中高大が一体となってキャリア教育を推進していくことになり、当会も協力していくことになりました。まずは学校の先生方や保護者に「なぜ、今キャリア教育なのか」ということを伝え、共感していただいて、県全体に浸透させていきたいと考えています。

●**キャリア教育とは、子どもが幸せな生涯を送るために行う教育**だとするならば、高校にぜひお願いしたいのは、有名大学への進学者数や企業への就職者数といった18〜19歳時点での成果だけでなく、子どもたちの遠い将来をも見据えたアドバイスです。その子の20〜30年後の姿を思い浮かべ、「君だったらこっちの道がいいんじゃないかな」といった助言もいただきたい。家庭でももちろんですが、先生方にもぜひお願いしたいですね。

学校、家庭、地域が三位一体となろう

●29p図34にもあるように、家庭と学校の役割分担を考える時、学校に期待したいことはいろいろありますが、そのすべてを学校ができるわけではありませんよね。**学校ができないことに関しては校外に協力を求めることも必**

要ではないでしょうか。例えば私は個人的にカウンセラーの資格をもち、心理学の勉強もしています。メンタルトレーニングの手法も学んだのですが、これが実にいい。精神的に安定するので人間関係がスムーズになり、モチベーションが上がるなどさまざまな利点があると身をもって感じています。ぜひ学校教育に取り入れるべきだと考え、高校生や保護者向けに学校で講習会を開かせてもらっています。しかし、協力いただける学校はまだ少ない。もっと門戸を開いていただけたら生徒や保護者、先生のためにもなるのになあと常々思っています。**保護者にはさまざまな人生経験や知識、ノウハウがあると思いますから、そうした資源は有効に使うべきではないでしょうか。**

●子どもたちを育み、見守る環境を整えるにあたっては、「学校」「家庭」「地域」が連携していくべきだという認識がようやく広まりつつあるように感じます。役割分担といったものを超え、これらが三位一体となって機能する環境が子どもたちのために、これまで以上に求められていくのではないのでしょうか。今回の調査を通じ、私たちも責任をもつてその推進に当たらねばならないと気持ちを新たにしました。



佐賀
小出邦彦



大阪
藤田城光



愛知
榎本 実



新潟
齋藤 隆



東京
岩淵賢次